

親鸞

親鸞聖人 御生誕850年を祝して
作曲家 平田聖子の世界
親鸞が音楽で現代に甦る。

｜ 東京公演 ｜

2022年10月31日(月) 17:45開場
18:30開演

紀尾井ホール

｜ 広島公演 ｜

2022年11月14日(月) 13:15開場
14:00開演

広島県民文化センターふくやま

■ 主催／合同会社平田聖子音楽事務所 親鸞和讃を歌う会 ■ 制作／佛法ひろまれ なん舎

■ 後援／(株)法蔵館 (株)カメラータ・トウキョウ 浄土真宗本願寺派総合研究所仏教音楽・儀礼研究室

浄土真宗本願寺派築地本願寺 浄土真宗本願寺派本願寺広島別院 浄土真宗本願寺派東京教区教務所

浄土真宗本願寺派備後教区教務所 真宗大谷派(東本願寺)東京教区 真宗大谷派広島別院明信院

(公財)仏教伝道協会 (有)瀬戸内家具工芸 武蔵野大学仏教文化研究所 京都の聞法お宿 となみ詰所

稲田禅房西念寺 愛知芸術文化協会ANET

ARTS

ARTS for the future!

文化庁補助対象事業



文化庁



親鸞

ごあいさつ

みだかんのん だいせいし だいがん ふね じょう
弥陀観音大勢至 大願の船に乗じてぞ
しょうじ うみ うじょう の
生死の海にうかみつつ 有情をよばふて乗せたまふ
しょうぞうまつ
親鸞聖人著『正像末和讃』より

ご和讃を拝読させていただきますと、親鸞聖人の本願力(=阿弥陀如来の救済のお働き)に遇えた慶びが、熱く熱く伝わってまいります。私は、親鸞聖人のこの慶びを音楽で表現したいと願い、作曲してまいりました。音楽はメロディーだけではなく、和音の流れ、厚み、音型、リズムなどの全てを総動員して表現しています。卓越した演奏を通して聴かせていただく親鸞聖人の言葉、共に味わいさせていただきます。

そして和讃に造詣が深い方も、和讃に初めて接する方も、「南無阿弥陀仏」がさまざまなメロディーに乗って歌われる中に、お心とお身体を浸していただければと思います。

本願力のめぐみによって賜りました「南無阿弥陀仏」のご縁は、幾重にも繋がり、広がり、たいへん多くの方々に支えていただき、今日の日を迎えることができました。お一人お一人のお心が思われ、有難い気持ちでいっぱいです。深く感謝申し上げます。

2022年10月31日(東京公演)

2022年11月14日(広島公演)

親鸞和讃を歌う会実行委員

作曲家 平田 聖子

Program

- | | |
|---------------------|---------------------------|
| 1. 六角堂 観音さま “夢のお告げ” | フルート独奏／平田万喜 |
| 2. 和讃 弥陀観音大勢至 | 指揮／平田聖子 |
| 正信偈 帰命無量寿如来 | Sop／奥村育子・藤田恵梨子 |
| 和讃 金剛堅固の信心の | Alt／大田亮子・小原美並 |
| 和讃 帰命尽十方無碍光如来 | Ten／大久保亮・杉浦孝治 |
| 和讃 十方微塵世界の | Bas／森 寿美・近野賢一 |
| | 親鸞室内声楽アンサンブル |
| | 箏楽／羽塚知啓 Fl／平田万喜 Vn／飯塚歩夢 |
| | Per／佐久間真理 Pf／居福健太郎 |
| 3. 教行信証後序 慶ばしいかな | バリトン独唱／近野賢一(東京公演) |
| 和讃 一子のごとく憐念す | 森寿美 (広島公演) |
| 和讃 子の母をおもうがごとくにて | Pf／居福健太郎 |
| 和讃 無明長夜の灯炬なり | |
| 4. 器楽曲 本願力のめぐみゆえ | ヴァイオリン独奏／飯塚歩夢 |
| 5. 器楽曲 いざ！天竺へ | Tp／清水祐男 Vn／飯塚歩夢 |
| | Per／佐久間真理 Pf／居福健太郎 |
| 6. 和讃 釈迦弥陀は慈悲の父母 | 指揮 平田聖子 |
| 組曲 「いちいちのはな」より | Sop／奥村育子・藤田恵梨子 |
| Ⅱ 和讃 正覚の華より化生して | Alt／大田亮子・小原美並 |
| Ⅲ 和讃 いちいちのはな | Ten／大久保亮・杉浦孝治 |
| Ⅳ 和讃 相好ごとに百千の | Bas／森 寿美・近野賢一 |
| | Pf／渡部真理 |
| 7. 和讃 清風宝樹をふくときは | 指揮 平田聖子 |
| | Sop／奥村育子・藤田恵梨子 |
| | Alt／大田亮子・小原美並 |
| | Ten／大久保亮・杉浦孝治 |
| | Bas／森 寿美・近野賢一 |
| | Fl／平田万喜 Vn／飯塚歩夢 Per／佐久間真理 |
| | Tp／清水祐男 Pf／居福健太郎・渡部真理 |

曲解説／平田聖子

六角堂 観音さまゝ夢のお告げ、(2021年作曲)

29歳の親鸞聖人が六角堂に参籠されて九十五日目の明け方、夢のお告げに純白の衣の観世音菩薩が大白蓮華に端座して現れたという。そして「そなたがやむを得ず破戒し妻帯して在家の生活を営むことになれば、私があなたの妻となってあなたの一生を仏道として美しく荘厳し、臨終には極楽へ導いていくであろう」と言われた。私は、この観音菩薩のお告げをフルート独奏曲として、音で表現した。

和讃 弥陀観音大勢至 (2013年作曲 高田コーラス海委囀)

弥陀観音大勢至 大願の船に乗じてぞ
生死の海にうかみつつ 有情をよぼうてのせたまう

阿弥陀如来・観音菩薩・大勢至菩薩の三尊仏が「南無阿弥陀仏」の船に乗ってやってくる。必ず助けると喚んでいる。「南無阿弥陀仏」とは、阿弥陀如来の救済の用きが詰まった慈愛溢れる言葉で、名号ともいう。2013年、高田の一光三尊仏御開扉記念に作曲した。

正信念仏偈より 帰命無量寿如来 (2010年作曲 真宗大谷派三河別院委囀)

帰命無量寿如来 南無不可思議光
本願名号正定業 至心信楽願為因
成等覚証大涅槃 必至滅度願成就

親鸞聖人は夢のお告げに導かれ、「持戒・破戒をえらばず、出家・在家を問わず、ただ本願を信じ念仏を申せば極楽に往生する」と教えておられる法然聖人に弟子入りされた。この歌詞は阿弥陀如来が「お願いだから念仏して浄土に生まれて来いよ」と願われている本願に従って生きてまいりますという表白である。

和讃 金剛堅固の信心の (2017年作曲)

金剛堅固の信心の さだまるときをまちえてぞ
弥陀の心光照護して ながく生死をへだてける

ダイヤモンドのように堅固な信心、それは、弥陀が念仏者に授けた信心だ。弥陀は堅固な信心が、「さだまるとき」を待っておられる!弥陀のよび声が初めて心に届いたのだ。曲は、躍動的なりズム感で、弥陀の活き活きた救済を表現。蓮如上人はこの和讃を「あらおもしろや」と頭をころがし感嘆されたという。

和讃 帰命尽十方無碍光如来 (2017年作曲 真宗大谷派徳園寺コーラス委囀)

尽十方の無碍光は 無明の闇をてらしつつ
一念歡喜する人を かならず滅度にいたらしむ

阿弥陀如来の光明は「無碍光」で、どんなに頑なな煩惱にも遮られることなく心の闇を破る。しかも「尽十方」で、十方世界のどんな

片隅にいる者をも照らされる。親鸞聖人は「帰命尽十方無碍光如来」と、その徳を大変喜ばれた。曲は、「無碍光」をあらゆる角度から煩惱の闇を照らしだすようピアノで表現し、十字名号でもある「帰命尽十方無碍光如来」をコーラスで歌い上げるよう作曲した。

和讃 十方微塵世界の

(2014年作曲 真宗大谷派岡崎教区坊守コーラス「コールアーバー」結成10周年記念)

十方微塵世界の 念仏の衆生をみそなわし

摂取して捨てざれば 阿弥陀となづけたてまつる

弥陀の光明は、十方微塵世界の、一切の衆生を照らしていただく。広大無辺な宇宙だ。その中で念仏する私を如来はちゃんとご覧になられ、弥陀と同じ覚りを開くまで、摂取の光明に包んでお捨てにならない。曲は「親さま有難うございます」と、阿弥陀如来のお名前を讃えて讃えて呼ばせていただく。これ以上の安心はない。

教行信証後序より 慶ばしいかな (2010年作曲 真宗大谷派三河別院委囀)

慶ばしいかな 心を弘誓の仏地に樹て 念を難思の法海に流す
深く如来の矜哀を知りて 良に師教の恩厚を仰ぐ
慶喜いよいよ至り 至孝いよいよ重し
これに因りて 真宗の詮を鈔し 浄土の要を拾ふ
ただ仏恩の深きことを念うて 人倫の嘲を恥ぢず

親鸞聖人が主著「教行信証」のあとがきで、「法然聖人の教えに会えたからこそ、今、私は阿弥陀如来の救いの中で生かされているのだ。この御恩を思うと、真宗がどういうものか、真実を書き著さずにはいられなかった。」と書かれている。この文章に感動し作曲した。曲は、慶びを嘯み締めるように歌われる。

和讃 一子のごとく憐念す

(2019年作曲 浄土真宗本願寺派善行寺コール和音40周年記念委囀)

超日月光この身には 念仏三昧おしえしむ
十方の如来は衆生を 一子のごとく憐念す
勢至菩薩が語り手である。「私は、超日月光如来の教えを受け、念仏三昧によって覚りを得ました」と、釈尊の御前に出られ、恭しく仏足を頂き、礼拝され、ご自分の覚りの趣を告白される。清浄にして荘厳な空気感を音に込めた。超日月光は阿弥陀如来のことである。如来は私たち衆生を、自分の一人子のように憐み「どうか私の名前―南無阿弥陀仏―を呼んでおくれ。念仏しておくれ。」と常に喚んでいただくさる。

和讃 子の母を思ふがごとくにて

(2000年作曲 浄土真宗本願寺派三河別院委囀)

子の母を思ふがごとくにて 衆生仏を憶すれば
現前当来とおからず 如来を拝見うたがわす

阿弥陀如来は、私たちを一人子としていつも思ってください。煩惱

に惑わされた人生を「可哀想だ」と、いつも涙を流されているのだ。
そのお慈悲が母のように感じられ、「南無阿弥陀仏」と口から出る。
ピアノの前奏では、如来の涙がこぼれ落ちるのが聞こえる。

和讃 無明長夜の灯炬なり (2004年作曲)
無明長夜の燈炬なり 智眼くらしとかなしむな
生死大海の船筏なり 罪障おもしとなげかされ

煩悩で眼を閉ざされた真っ暗闇にいる私たちに、阿弥陀如来の
大きな灯火が照らす。智慧の眼がなく、罪障の重いことを嘆けば、
「悲しむな、嘆くな」と、如来は大きな慈愛で包んで下さる。2004年
私の祖母が往生した49日の法要で初演した。篤信の人であった。

本願力のめぐみゆえ (2021年作曲 ヴァイオリン版)

2017年に、広島県龍仙寺本堂再建記念曲として作曲。原曲は、
正信偈意識天親章からの歌詞が付いた合唱曲である。西本願
寺主催「音御堂」コンサートでも取り上げられている。

いざ！天竺へ (2019年作曲 大人のためのおんがくのおもちゃぼ作品の改訂版)

「西遊記」の魔物と闘う冒険を音楽で表現した。マリンバと打楽器
全般が孫悟空、ヴァイオリンが三蔵法師、トランペットが沙悟浄、ピ
アノが猪八戒という編成。親子でこの曲を聴きながら『西遊記』の
物語で仏教に関心を持ってもらいたい。このことは、衆生を仏道に
入らしめたい阿弥陀如来の願いに順ずることになると思う。

和讃 釈迦弥陀は慈悲の父母

(2016年作曲 浄土真宗本願寺派備後教区寺族婦人合唱団ボーモリス委嘱)

釈迦弥陀は慈悲の父母 数々に善巧方便し
われらが無上の信心を 發起せしめたまいけり

釈迦が「南無阿弥陀仏一つで救われるこの道を行け!」と背中を
押し、弥陀が「直ちに来い!必ず助け護る!」と招き喚ばれる。信心を
すでにいただいた念仏者は、釈迦弥陀二尊のお慈悲を「父母」の
ようだとかう。曲の前奏・間奏・後奏では、釈迦の「発遣」と弥陀の
「招喚」を表現している。

組曲「いちいちのはな」

Ⅱ和讃 正覚の華より化生して (2017年作曲 真宗高田派コーラス遊戯委嘱)

如来浄華の聖衆は 正覚の華より化生して
衆生の願樂ことごとく すみやかに疾く満足す (高僧和讃より)

いよいよ娑婆から浄土へと生まれ満足している歌。本願力(=弘
誓の力)によって浄土の華に生まれた。浄華とは、阿弥陀が仏にな
られた時の覚りの華。衆生が覚りの華に生まれたなら、阿弥陀如
来と同じ覚りを得た仏となる。これこそが娑婆にいる時からの願
いであった。何故ならば、これからは娑婆の人々を自由自在に救う

ことができるからだ。仏さま方は、たいへん満足して念仏されてい
る。私は曲で、この仏さま方に満足のハーモニーを当てた。言葉は
「南無阿弥陀仏」で、ほっこり微笑むように歌われる。

Ⅲ和讃 いちいちのはな (2004年作曲 真宗大谷派コーラスいちいの華の会委嘱)

一、いちいちのはなのなかよりは 三十六百千億の
光明てらしてほがらかに いたらぬところはさらになし
二、いちいちのはなのなかよりは 三十六百千億の
仏身もひかりもひとしくて 相好金山のごとくなり (浄土和讃より)

華から出る光明を讃える歌。浄土では、無数の蓮の華が咲いてい
て、それぞれ華の中には仏さまがいらっしゃる。華の百千億の花び
らには、青、白、玄、黄、朱、紫の六光があって互いに照らし合う。
故に、六六三十六の百千億倍という無量の光となり、届かぬところ
はない。遠くから見れば、お浄土は金の山のように光り輝いてい
る。情景を思い浮かべただけでもわくわくする。私はこの和讃に3
拍子を選んだ。

Ⅳ和讃 相好ごとに百千の (2020年作曲 真宗大谷派正雲寺委嘱)

相好ごとに百千の 光を十方にはなちてぞ
つねに妙法ときひろめ 衆生を仏道に入らしむる (浄土和讃より)

浄土の華にいらっしゃる、仏さま方の働きを讃える歌。曲中ピアノで
光明のパッセージを十方に放った。「常に」とは、今、現在も説法し
続けていらっしゃるということ。その全ては私を仏道=本願の念仏
にいらしめるためであった、と阿弥陀如来の大慈悲を讃えられる。
曲の後奏で「南無阿弥陀仏」で如来を讃えて歌い上げる。その声
は、浄土の三十六百千億の仏さま方の声、その声に導かれた私
たち衆生の念仏の声が重なる。

和讃 清風宝樹をふくときは (2007年作曲 真宗大谷派守綱寺委嘱)

清風宝樹をふくときは いつの音声いだしつつ
宮商和して自然なり 清浄歎をれすべし
清風がそよ吹き、宝石でできた樹林が音を出している。ぶつかる
音でも浄土では美しいハーモニーだ。曲は、壹超調の旋律にピア
ノで清風を吹かせ、フルートは浄土の鳥となって美しく啼く。南無
阿弥陀仏の声が風に乘って四方八方から聞こえてくる。

親鸞聖人の和讃とは

親鸞聖人は、75才ごろ御主著『教行信証』を全て漢文で書き
終えられた後、その内容を言葉を和らげ、ひらがな使いで、和
讃という 7+5 音・4 行形式の詩で書いていかれました。最晩
年の 88 オごろまで、改訂・増補を行われましたその和讃の総
数は、500 首を超え、鎌倉時代の文学作品としても冠絶します。
これによって、漢文が読めない庶民も、阿弥陀如来の救いに遇え、
讃えることができるようになりました。

Profile



平田 聖子 *Seiko Hirata 1960~* 〈作曲家〉

愛知県立芸術大学音楽学部作曲科卒業。作曲を故小林秀雄氏に師事。昭和60年度文化庁舞台芸術創作奨励賞受賞。1995年より宗教音楽作品をライフワークとし、親鸞の世界に作曲。念仏「南無阿弥陀仏」を、自然で豊かな旋律に乗せ、曲ごとに変化をもたせた作風が広く愛され、日本の宗教曲として各寺院はもとより、コンサートホールや海外でも演奏されている。2005年和讃曲集「本願力にあいぬれば」の楽譜を法蔵館より刊行。2009年にはCDをカメラータ・トウキョウよりリリース。講演「親鸞のこころを音楽で」が、NHKラジオ第2放送「文化講演会」で放送される。

2011年親鸞聖人750回御遠忌法要で、教行信証と和讃による曲集「慶ばしいかな」を東本願寺御影堂で初演。2018年より西本願寺が開催する「音御堂」コンサートにおいて、「弥陀の名号となえつつ」「本願力のめぐみゆえ」が全国の寺院コーラスによって歌われている。

「作曲家 平田聖子の世界 親鸞が音楽で現代に甦る。」コンサートシリーズは、2012年名古屋にて開催を皮切りに、2015年名古屋、2018年京都、2021年名古屋、鹿児島、2022年東京、広島で開催。



奥村 育子 *Ikuko Okumura* 〈ソプラノ〉

愛知県立芸術大学大学院首席修了。2012年度中村桃子賞受賞。大幸財団第22回丹羽奨励生。第67回全日本学生音楽コンクール 声楽部門大学の部全国大会第2位、その他多数コンクールにて入賞。現在、東海地方を中心にオペラ・オペレッタ、ミュージカルに出演する他、後進の指導にあたる。同朋高等学校音楽科非常勤講師、もりっこ彩合唱団指導者。水野麻美、末吉利行の各氏に師事。



藤田 恵梨子 *Eriko Fujita* 〈ソプラノ〉

名古屋音楽大学大学院修了。卒業後、ドイツ、イタリアに出向き研鑽を積む。ソロリサイタルの開催、「メサイア」、「第九」のソプラノソリストを務める他、クラシックギターとのコンサートなど、多数の演奏会、オペラ等に出演。現在は演奏活動を行う他、合唱団指導や後進の指導にあたっている。現在、名古屋音楽大学附属音楽アカデミー講師。



大田 亮子 *Akiko Ohta* 〈アルト〉

真宗大谷派名古屋教区大圓寺衆徒(真宗大谷派教師)。

名古屋音楽大学卒業。同大学院修了。共に首席修了。特待生奨学金を授与される。2004年よりミラノに留学し、Accademia Lirica Internazionale "Arnaldo Mantovani"にてディプロマ取得。「カヴァレリア・ルスティカーナ」サントウツァ役でデビュー。2014年に帰国し、後進の指導、合唱指導にも力を注いでいる。現在、藤原歌劇団団員、名古屋音楽大学講師、同朋高等学校合唱部指導者。



小原 美並 *Ohara Minami* 〈アルト〉

愛知県立芸術大学大学院修了。サントリーホール オペラ・アカデミー第3期プリマヴェーラコース修了。これまでに加藤三貴子、三崎今日子、マルチェッラ・レアーレ、野田ヒロ子、大下久深子の各氏に師事。多数のオペラにおいて主要キャストで出演する他、宗教曲や第九などのソプラノソリストも多数務める。小澤征爾音楽塾オペラプロジェクトXVIではラヴェル作曲「子どもと魔法」の安楽椅子とこうもりのカヴァーキャストを務める。



大久保 亮 *Ryo Okubo* 〈テノール〉

愛知県立芸術大学大学院首席修了。ワーグナー「神々の黄昏」ジークフリート役をはじめ、「カルメン」「こうもり」「ヘンゼルとグレーテル」など様々なオペラに出演。またバッハ「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」「クリスマスオラトリオ」エヴァンゲリストのほか、ヘンデル「メサイア」ベートーヴェン「交響曲第9番」などテノールソリストとして出演。現在、声楽を畑儀文氏に師事。



杉浦 孝治 *Kouji Sugiura* 〈テノール〉

愛知県立芸術大学声楽専攻卒業。同大学大学院博士前期課程修了。これまでに、オペラにて「王子役」「皇帝役」など多数のキャストに出演他、岡崎市制100周年記念事業などの音楽劇主役にも出演。その他、歌のお兄さんやホテル、病院などイベントでの演奏活動も行っている。地元である岡崎市に音楽スタジオびあっと建設。音楽スタジオの責任者として教室を開講。声楽・ピアノ・バイオリン・チェロの教室運営を行う。



森 寿美 *Toshimi Mori* 〈バス〉

大阪教育大学卒業。沖縄県立芸術大学大学院、ミュンヘン音楽大学大学院修了。第5回長久手国際声楽オペラコンクール第1位、第43回ドヴォルジャーク国際声楽コンクール第2位(チェコ)、第79・85回日本音楽コンクール声楽部門(歌曲)入選等。ソリストとして国内外のオーケストラと共演する他、オペラ、宗教曲、ドイツ歌曲など様々な分野で活動している。現在、愛知県立芸術大学准教授。名古屋芸術大学非常勤講師。



近野 賢一 *Kenichi Konno* 〈バス〉

京都市立芸術大学大学院修了。フライブルク音楽大学、ミュンヘン音楽大学修了。国内外にて意欲的にドイツ歌曲リサイタルを行い、ベートーヴェンからシェーンベルクに至る作曲家の主要なリート作品を取り上げている他、オラトリオや『第九』のソリストとしても活躍している。青山音楽賞新人賞受賞。2018年1stCD『美しい五月に〜シューマン歌曲集』をリリース(レコード芸術誌準推薦盤)。現在、岐阜大学准教授、名古屋音楽大学非常勤講師。



平田 万喜 *Maki Hirata* 〈フルート〉

名古屋芸術大学卒業。伊藤公一氏に師事。現在、寺田愛氏に師事。日本フルート協会、愛知芸術文化協会会員。2017年芸創コラボ深読み昔話「桃太郎」に村娘役でフルート演奏。演技演奏ともに好評を博す。あいちトリエンナーレ2019舞台芸術公募プログラムにて、平田聖子作曲フルートソロ曲「修羅像」を初演。依頼演奏の他、自主企画コンサートも開催。暮らしの学校安城アンフォーレ校、にんぼう倶楽部、自宅などでレッスンを開講している。



清水 祐男 *Sachio Shimizu* 〈トランペット〉

東京ミュージカル&メディアアーツ尚美コンセルヴァトアールディプロマコース卒業。現在、編成・ジャンルを問わず様々な活動を行う他、後進の指導にもあたっている。これまでにトランペットを村木純一、畑田和雄、板倉駿夫、津堅直弘の各氏に師事。室内楽を稲川榮一氏に師事。ジャズポップス奏法を野々田万照氏に師事。セントラル愛知交響楽団団員。金城学院大学文学部音楽芸術学科非常勤講師。



飯塚 歩夢 *Ayumu Iizuka* 〈ヴァイオリン〉

7歳よりヴァイオリンを始める。第69回全日本学生音楽コンクール東京大会中学校の部第2位。第5回デザインK音楽コンクールグランプリ第1位。第8回コンコルソMusic Arte高校の部グランプリメオスベチャーレ(特別優秀大賞)。イタリア世界遺産テアトロ・オリンピコ及びヴェローナ・ヴェネツィア各国立音楽院にて演奏。2019年度日本演奏連盟 宗次エンジェル基金奨学生。これまでにヴァイオリンを渡辺亜美、岩澤麻子、徳永二男の各氏に師事。桐朋女子高等学校音楽科(男女共学)を経て、現在、桐朋学園大学に特待生として在学中。



佐久間 真理 *Mari Sakuma* 〈打楽器〉

京都市立芸術大学音楽学部管打楽器専修卒、同大学院修了。作曲家個展、録音録画やイベント、プロオーケストラや室内楽の各種演奏会等に多数出演。躍動感あふれる演奏スタイルには定評がある。打楽器アンサンブルトリオ「マリンバアート」で毎年「打フェスタ」を開催、打楽器2名とピアノによる「コラボックル」主宰、両ユニットとも21年目を迎える。愛銀教育文化財団助成金受賞。同朋大学、愛知東邦大学、名古屋文化学園保育専門学校、各非常勤講師。かりやプラスプロジェクト講師。



居福 健太郎 *Kentaro Ihuku* 〈ピアノ〉

東京藝術大学大学院修了。これまでにソリストとして東響、日本フィル、オーケストラ・アンサンブル金沢、仙台フィル、セントラル愛知交響楽団と共演。ソロでの活躍の他室内楽奏者として五嶋龍、戸田弥生、山崎伸子、ヘンリック・ヴィーゼ(バイエルン放送交響楽団首席奏者)、との共演や小菅優とのピアノデュオをはじめ多くの奏者から強い信頼を得ている。現在、東京藝術大学非常勤講師。



渡部 真理 *Mari Watanabe* 〈ピアノ〉

愛知県立芸術大学大学院修了。横山千代子、桜井秀、久保みち、小津恒子、三宅洋一郎、ディーナ・ヨッフエの諸氏に師事。伴奏法・合奏法を三浦洋一氏に師事。第10回静岡県音楽コンクールピアノ部門第1位。リサイタル開催、ピアノ協奏曲を国内外のオーケストラと共演の他、独唱や各種室内楽の共演者として、また、数多くの合唱団のピアニストとして幅広く活動している。現在、桜花学園大学、金城学院大学非常勤講師。名古屋音楽学校講師。



羽塚 知啓 *Tomohiro Hazuka* 〈筆筆〉

東本願寺の楽頭の家系に生まれ、幼少から雅楽に親む。大学ではコントラバスを専攻する。桐朋学園大学音楽学部卒業・東京藝術大学大学院修士課程修了。ウィーン国立音楽大学卒業。帰国後、コントラバス演奏において独奏・小編成アンサンブルを中心に活動。名古屋音楽学校講師。雅楽は東京藝術大学大学院在学中、芝祐靖先生より手ほどきを受ける。東本願寺正楽僧・中部日本雅楽連盟理事・名古屋東照宮雅楽部の楽人として活動。



荒山 淳 *Jun Arayama* 〈朗読〉

1961年2月、愛知県名古屋市に生まれる。同朋大学文学部仏教学科卒業。真宗本願寺同朋会館嘱託補導歴任後、教導。尾張学園名古屋・豊田大谷高校講師。現在、真宗本願寺楽僧取締。真宗大谷派名古屋教区教化センター主幹。真宗大谷派恵林寺副住職。清和会館仏教講座講師。

親鸞室内声楽アンサンブル

平田聖子の親鸞作品を歌う、プロ声楽家集団による室内声楽アンサンブル。2020年結成。

これまでにCD「いちいちのはな」録音、「親鸞が音楽で現代に甦る。」名古屋公演、鹿児島公演に出演。

〔コーラスメンバー〕

朝見 紗也香 岩田 健豊 加藤 こころ 加藤 由理子 塩内 太一郎 鈴木 惇也 関 良芽 月山 風音 中村 るな 野田 美宇
馬場 里美 水谷 有南 水野 怜可 山崎 千裕

〔稽古ピアニスト〕

奥村 明子 松本 成美

応援メッセージ



このたびは、「親鸞コンサート～作曲家 平田聖子の世界～」を東京において初めてご開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

宗祖親鸞聖人は、1224(元仁元)年52歳の時に『教行信証』を著されました。そして、この年をもって浄土真宗の立教開宗と定められています。2024(令和6)年に、立教開宗800年の記念すべき年をお迎えするときに、本公演「親鸞コンサート」が開催されますことは、大変に意義深いものと存じます。平田先生の作曲によって、親鸞聖人のご和讃が珠玉のメロディーとなって歌われますことは、現代を生きる多くの人々の心に、必ずや響くことでありましょう。このたびのコンサートをご縁として、阿弥陀如来様のお慈悲を深く味わいつつ、親鸞聖人のご遺徳を偲ばせていただきたく思います。

コンサートのご成功を通して、いよいよお念仏の輪が広まることを心から願いたします。

築地本願寺 宗務長 中尾史峰(東京都)

2018年の親鸞コンサートin京都で、朋友コーラスの1員として平田聖子さんの和讃曲を300名の皆さんと共に舞台上で歌い、感動したことを昨日のことのように思い出します。コロナ禍に苦悩する今も、親鸞聖人の御和讃が平田先生の旋律にのって希望の光を放って下さいます。音楽で人々の心にお念仏が届くこのコンサートを心より応援しています。

浄土真宗本願寺派 本願寺前執行長 武田昭英(広島県)

親鸞聖人は、74才～75才ごろに、御主著『教行信証』(全漢文)を書き終えられて後、その内容を、当時大流行の今様(7+5音・4行の形式の和讃)に選述、最晩年の88才ごろまで、改訂・増補を行われた。和讃の総数、500首を超え、他の諸師の作品に冠絶する。これは文盲の庶民でも読誦、お念仏の法義の理解を希われたからであろう。そして聖人の希いに応えることこそ、聖人御誕生850年慶讃の一大目標であり、平田先生御労作の、より一層盛大・普及を切望するものである。(出来れば子供向きの御労作も頂戴したい)

浄土真宗本願寺派 元総長 西福寺住職 豊原大成(兵庫県)

親鸞聖人が出遇われたご本願や、そのお導きを述べられたご和讃。そのご文のまま作曲された音楽は、まさに「今様(現代的)うた」。ここにしかない豪華キャストによるメロディーと歌声に、阿弥陀さまの広大なるお心を感じさせられます。

京都聞法お宿 砺波詰所 所長 本願寺派布教使 葦原理江(京都府)

親鸞を讀んでやまない作曲家・平田聖子さんが、入魂の曲づけ、そして歌う“親鸞和讃”の数かず。宗教音楽の極致。こんな非常の時だからこそ、耳を傾けよう。親鸞の深きいのち、広きいのちの世界に触れ、生きる力をいただく。

元同朋大学 学長 池田勇諦(三重県)

今日一日、生かされる尊さや喜びを感じない人は、十年先でも同じでしょう。明日の生命の保証は誰にもありません。コロナ禍なら尚更です。そんな中で、今ここに親鸞聖人のお言葉を曲に込めた楽曲の場があたえられました。明日がわからないからこそ、今日一日、このひと時をたしかなものとして、ご参集の皆様共々、よろこび合いたいと思います。

大谷派高山別院の二月の掲示板にはこのようにあるそうです。「仏法は不要不急だろうか。阿弥陀さまは不眠不休です。」

真宗大谷派 蓮成寺 住職 青木 馨(愛知県)

阿弥陀仏の本願の力に出遇えたならば、その一生をむなしく過ごす人はいないと、浄土真宗を開かれた宗祖親鸞聖人は言います。であるならば、コロナは禍にあらず、その中で何を考え、どう生きるかが今、問われています。そこで、やわらかに、すこやかに、私たちに励ましてくれるのが、御念仏と御和讃の響き。今回も平田聖子さんご作曲の御和讃をご一緒に口ずさみたいです、御念仏とともに。

同朋大学教授 安藤 弥(愛知県)

感染予防しながらの「本願力に遇えた慶び」コンサート開催おめでとうございます。「コロナ過だからこそ、親鸞聖人のお言葉を音楽でお届けしたい」平田聖子先生の思いに共感し、心の闇を明るくしてくれるコンサートになることを願っております。そして、新型コロナウイルスが1日でも早く終息し、皆様の平常な生活ができるようになることを祈っています。

法蔵館社長 西村明高(京都府)

前回のコーラス参加者です。親鸞聖人ご在世の頃も疫病や災害の中にある人々が、聖人のご和讃の調べに力づけられていたことでしょう。平田先生の音楽も、聖人の御心そのままに、苦難の今を生きる私たちに、いのちの喜びと生きる力を与えてくださいます。今を生きていくことに感動のあることを思い出させてくださいます。コロナ禍の今こそ大切な意味をもつコンサート、開催おめでとうございます。

真宗佛光寺派 布教使 藤末光紹(兵庫県)

～本願力に遇えた慶び～の世界を、なんとまあ、この私も一緒に慶ばせて戴くご縁をさずからせて頂きました。うれしく心弾みますと同時に、宗祖御開山さま、そして御母堂さまのお慶び、御満足なほは笑みがお念仏と共に今、私のこころいっばいに広がって下さっています。おかげさまで人間にうまれさせていただいた甲斐まで慶ばせていただきました。一筆、篤く感謝御礼申し上げます。合掌

浄土真宗本願寺派布教使 専念寺 坊守 加藤幸子(三重県)

この分断と差別の時代、さらにコロナで引き裂かれる人間の命。今、いよいよそそがれている大悲の願心を感じます。「如来の遺弟悲泣せよ」と聖人の声が聞こえます。そんな時、歌っているあなたと、聞いている私とが一つになり、満堂の声の中で融け合うとき、宮商和して自然なる浄土の音声が、願海のうねりとなって私に迫って参ります。ありがとう「♪親鸞が音楽で現代に甦る」

真宗高田派前総務 藤澤眞純(三重県)

千載一遇の機。「無上甚深微妙の法」音をお聴かせいただきましょう。750年の時を経て今甦る「親鸞さま」。“火宅無常(コロナ)”の世を逡巡する私共に、道標を、テノールとなりソプラノとなり、バス・アルトとなり音楽とならせたもう。「光は音となる」と。集約された光が「音」に転換された調べ(曲)は、朝の小鳥の囀りのようだった。a mita (アミータ=量ることのできない)それ程のお救いの光は、今、平田聖子先生のご信心から私共へ「ナモアミダブツ」の音となって届けられます。それほど業(煩惱の闇を抱えた)この身に。

浄土真宗本願寺派 布教使 梶原佑倖(北海道)

生かされている このいのち 願われている 愚のめざめ
喚びかけづくめの 弥陀の声 今ぞ身にしむナムアミダブツ
香光莊嚴 もったいなや

真宗出雲路派 了慶寺 住職 藤枝宏壽(福井県)

「正覚大音 響流十方」(さとのみこと 高らかに あまねく十方にひびくなり)まさしく「まことの声」は、日々悩める私に響流せしめられています。耳を傾けて聴かせていただきます。すると「南無阿弥陀仏」私を照らし、導き、支え、守り続けるという喚び声が聞こえてくるはずです。平田聖子先生の世界が、この喚び声を今私たちに届けて下さる事に感謝し、コンサートのご盛會を念じております。

浄土真宗本願寺派 正覚寺 住職 清胤弘英(広島県)

疫病の世に親鸞聖人のご和讃を聞く。その美しい音曲を聴き歌う中に、弥陀大悲の誓願が胸に沁み入る歌声の中に、我いま救いの中にありと、聴聞させて頂く世界が開かれる。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏 合掌

浄土真宗 本願寺派善正寺 住職 渡辺悌爾(三重県)

私が平田聖子先生を初めて知ったのは、20年程前の岡崎市本宗寺様の蓮如上人五百回遠忌法要でした。コロナ禍でどこもかしこも自粛ムードの中、それを打ち破るかのような熱意とパワーに敬意を表します。

浄土真宗 本願寺派善正寺 坊守 渡辺充子(三重県)

私は今広島の一僧侶として、春秋会(浄土真宗僧侶約100名)という会に所属しており、お念仏のみ教えがひとりでも多くの方に伝わるよう、日々仲間とともにあらゆる形を模索しながら活動が続けています。この度ホームページを拝見させて頂きました。コロナ禍だからこそ伝わっていくことが必ずあると思います。この度のコンサートで、歌声とともに一層お念仏の声が広まっていくことを願います。合掌

浄土真宗本願寺派 春秋会 僧侶 永光聖法(広島県)

祝「親鸞」コンサート開催。

平田さんのことは、川内徳清さんに教えて頂き、ネットで拝見しました。素晴らしい歌声とメロディー・歌詞、心が震えました!きっと、如来様に動かされておられるのでしょうね。

社会福祉法人るんびに苑前理事長 藤 大慶(京都府)

本願力のめぐみゆえ

【普及版】

意訳正信偈より

平田聖子 作曲

Moderato

5

mp

*3番

1. ほ と け の み な 一 に きう し て こ そ
2. は ち す の の く な 一 に いか し ま れり こ はて
3. しょう うち の の そ の 一 に

mf

*2番

じょう 一 ど の ひ と 一 の か ず に い れり
しま ん よ の る さ と 一 り か ひす ら く う な り

mf

mp

1~3 ほん がん り き の め ぐ み ゆ え 南 無 阿 弥 一 一 一 陀

f

mp

ほん がん り き の め ぐ み ゆ え た だ た だ いっ しん の

1. 2. 4.

す く い か な 一 な 一

3. *rit.*

な 一 南 無 阿 弥 陀

本願力のめぐみゆえ

一、ほとけのみ名に帰してこそ

浄土の聖衆のかずに入れ

本願力のめぐみゆえ

南無阿弥陀

本願力のめぐみゆえ

ただただ一心の救いかな

二、蓮華の国にうまれては

真如のさとひらくなり

本願力のめぐみゆえ

南無阿弥陀

本願力のめぐみゆえ

ただただ一心の救いかな

三、生死の園にかえりきて

まよえる人を救うなり

本願力のめぐみゆえ

南無阿弥陀

本願力のめぐみゆえ

ただただ一心の救いかな

南無阿弥陀

弥陀の名号となえつつ

親鸞聖人 和讃
平田聖子 作曲

Andantino ♩ = 76

みだ の みょうごう と な え つ つ

しん じん ま こ と に う る ひ と は お く ね ん の し ん つ ね に し

て ぶ つ と ん ほう ず る お も い あ り 南 無

阿 弥 陀 一 仏 一 南 無 阿 弥 陀 一 仏 南 無

阿 弥 陀 一 仏 一 南 無 阿 弥 陀 一 仏

仏 南 無 阿 弥 陀 一 仏

みだ みょうごう
弥陀の名号となえつつ

(浄土和讃より)

みだ みょうごう
弥陀の名号となえつつ

しんじん
信心まことにうるひとは

おくねん しん
憶念の心つねにして

ぶつとんほう
仏恩報ずるおもいあり

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏

南無阿弥陀仏